

登録費値上げの問題は、登録費を 1000 円余計に払うか、払わないかという問題ではない。日本のオリエンテ-リングをどう普及発展させ、そこに組織とオリエンテ-リング愛好者がどう役割分担していくかという大きな問題を含んでいる。2007 年 10 月号のオピニオン欄に掲載された菅原氏の問題提起に答えつつ、未来の日本のオリエンテ-リングを展望する。

浮かび上がった問題

菅原氏「オピニオン」要旨

「JOA は現在競技者登録費の 3000 円への値上げを予定しているが、これは収入増につながるというよりも登録人口の減少につながる自殺行為である。日本のオリエンテ-リング界に貢献するには、地域クラブ等が公認大会を開催することも組織の社会的責任(CSR)であり、重要な解決方法である。いずれにしろ、財政事情、経費削減策など総合的に考えるべきである。」(要点作成 村越)

菅原氏の意見の他にも都道府県協会や個人から、5 月に行なわれた総会での登録費値上げに関するご意見を JOA へてに頂きました。最初に、JOA の処務に関する皆さんの関心に感謝します。

菅原氏のオピニオンに対する JOA 専務理事としての考えはウェブに掲載しましたので、詳しくは (<http://>) をご覧下さい。その骨子は、1)現在の JOA は支出的にもぎりぎりの状況でやっており、支出を減らすことは個人宅など事務所維持経費のかからない場所を協会事務所にするか、現在パートとして 1 日 2 名で行なっている処務を、ボランティアに行なうこと以外にない点、2)収入を増やす方法は様々であるが、それは結局オリエンテ-リング愛好者が金銭的かマンパワーのいずれかで日本のオリエンテ-リング界に対するコミットを深めることである、という 2 点でした。来年度については、登録費の値上げは見送りましたが、これらの点については、引き続きよりよい解決

を目指していくことが必要です。

ウェブに掲載されたコメントに対して菅原氏からの私的なメールがあり、菅原氏、私・JOA 事務局長の間で集中的なメールのやりとりが行なわれました。その中で、登録費の値上げよりも重要なオリエンテ-リング界の問題がいくつか浮かび上がってきました。今回はその点について指摘し、オリエンテ-リング愛好者の皆さんの関心を喚起したいと思います。

第一はオリエンテ-リング人口の減少と活動度の低下、その中で日本のオリエンテ-リング活動を誰がどうやって維持していくかという問題、第二は組織と愛好者の関係の問題でした。

第一の問題については、ここ約 10 年の間、一部の組織を除いて普及の努力が十分でなかったことが影響しています。野外活動施設や学校でのオリエンテ-リングは依然行なわれていますが、その頻度は減り、魅力の欠けたものになってしまっています。パーク O やミニオリエンテ-リングなど、より魅力的なプログラムが蓄積されてきたにもかかわらず、それを提供することも怠ってきました。併せて、これまでオリエンテ-リング人口の大きな供給源であった学生クラブも、学生人口の減少や学生のクラブ離れによって、クラブ員の減少が続いています。JOA としても、野外活動施設とタイアップして、新たな活動プログラムの開発・普及を図る、学連と協力して研修の機会を作るなどの努力を続けています。

第二の問題は、多くのオリエンティアが JOA を「誰か偉い人が作ったお上のような組織」、あるいは「自分のオリエンテ-リング活動とは無関係な組織」と捉えているのではないかという問題です。

JOA の前身である JOLC (日本オリエンテ-リング委員会) は、政府の肝いりで行なわれた国民体力づくり運動の中で生まれた組織でした。行政のトップダウンで、各県にオリエンテ-リング協会が作られ、それによって 1970 年代以降のオリエンテ-リング普及が行なわれ、現代のオリエンテ-リングの基盤が作られました。その後 1990 年代になって、各都道府県の協会が社員となる形で日本オリエンテ-リング協会 (JOA) が社団法人として設立されました。

その一方で、多くのオリエンテ-リング活動は、JOLC や JOA とは無関係

に存在していた地域クラブや大学クラブによって推進されてきました。このような事情から、オリエンティアの多くが、自分たちを代表し、自分たちのオリエンテ-リング活動を調整するために必須の組織だという考えを、JOA に対して持っていないように思われます。しかし、世界選手権等の国際大会に参加するのも、日々のオリエンテ-リングが規則によって円滑に行なわれるのも、オリエンテ-リングを統括組織があればこそです。JOA がなくても、その活動を誰かが何らかの形で行ない、共有しない限り、日本のオリエンテ-リングは立ちゆきません。

この点に関しては、確かに現在の JOA の PR 活動はまだ十分なものとは言えません。この点は、現在定期的に発行されるようになり、全登録者・指導者に送られている JOA ニュースを活用し、JOA の活動の実態を知っていただくと同時に、参加意識の持てる協会運営の方法を模索していきたいと考えています。

これからの普及のために

普及・発展を図り、組織と愛好者の関係を考える時、オリエンテ-リングのユニークな側面は大きな鍵を握っています。自然に挑むアウトドアスポーツでありながら、高度で洗練された競技スポーツでもあるオリエンテ-リングは、スポーツとしてもアウトドア活動としてもユニークなものです。また、競技者が時に運営者として汗を流す互恵のシステムは、オリエンテ-リングが誇る文化でさえあります。

オリエンテ-リングの持つ特性は、教育的にも有意義ですし、アウトドアの世界に対しても不可欠なスキルを提供し、重要な貢献ができるものです。それを実際に形にしていくために、組織が何をすべきなのか、オリエンテ-リング愛好者に何ができるのか、そのために組織がどんな条件整備をすればいいのか、今後も、長期的な普及・発展の夢を持ち、協会運営を進めていきたいと考えています。愛好者の皆様のご理解とご協力、そして時には厳しいご意見を是非、日本オリエンテ-リング協会にお寄せください。

ご意見はメール：
joa-opinion@hear.to またはお近くの理事、専務理事(村越)、事務局長(尾上秀雄)等までお寄せください。